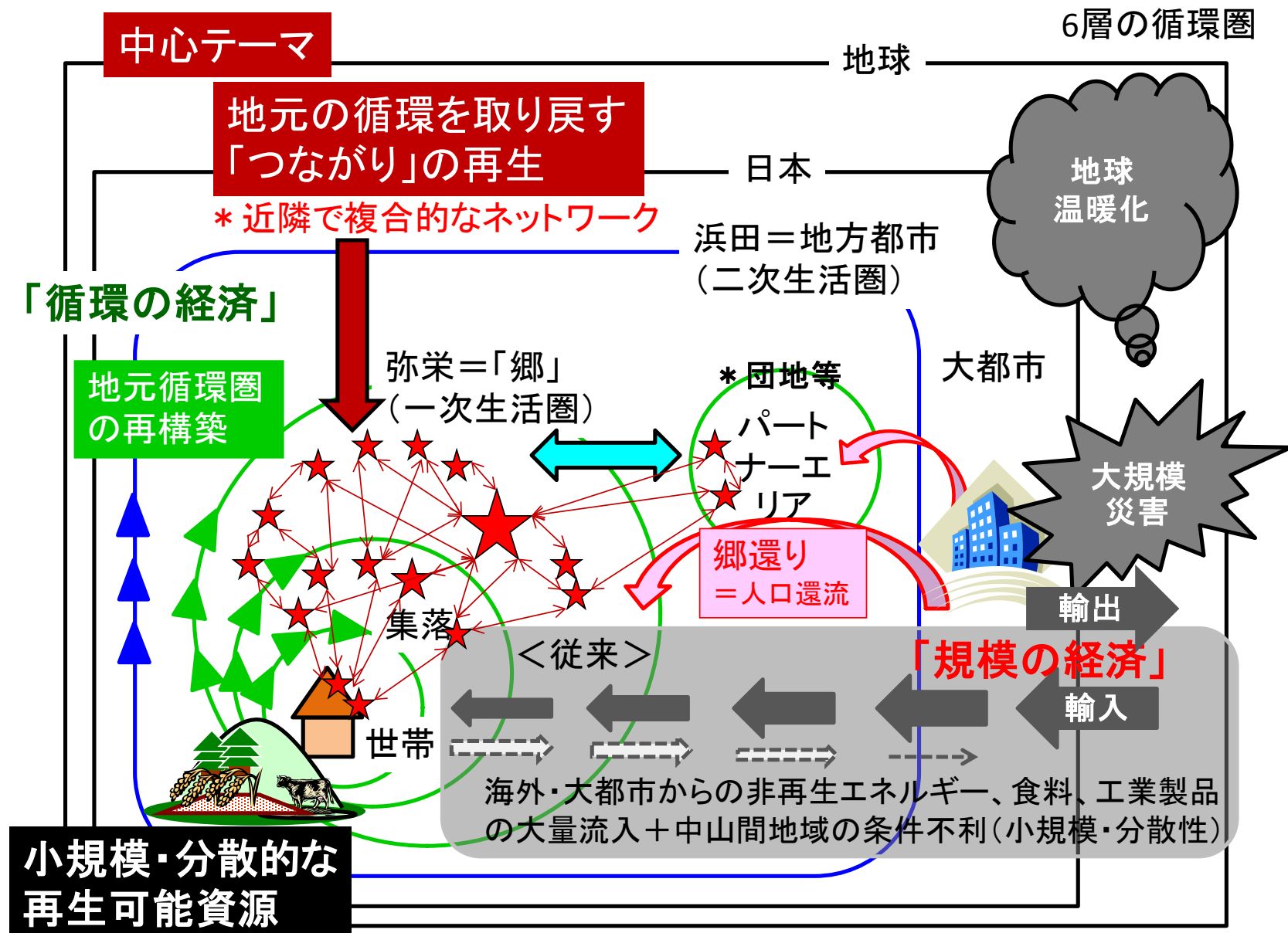


# 研究開発プロジェクト 実施終了報告

## 「中山間地域に人々が集う脱温暖化の『郷(さと)』づくり」



# モデル地区の設定～島根県浜田市弥栄自治区

世帯数591戸  
 人口1,494人  
 高齢化率43.4%  
 面積105.5km<sup>2</sup>  
 人口密度14.2人/km<sup>2</sup>  
 \*2010年国勢調査

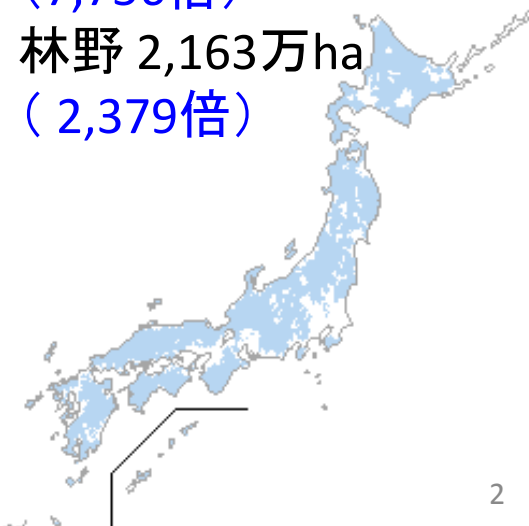
<生活施設>  
 小学校1、中学校1  
 公民館2、役場支所1  
 診療所1

1960年人口 5,288人  
 1970年人口 2,853人  
 2005年人口 1,612人  
 2010年人口 1,494人  
 ↓(想定)  
 2050年人定住口**5,444**人  
 \*日本の平均人口密度(343人/km<sup>2</sup>)→**36,154**人居住  
 \*世界の平均人口密度(47人/km<sup>2</sup>)→**4,959**人居住



全国中山間地域  
 1万分の1モデル

全国中山間地域  
 (弥栄との倍率)  
 人口 1,470万人  
 (9,836倍)  
 面積 27万km<sup>2</sup>  
 (2,573倍)  
 耕地 185万ha  
 (7,756倍)  
 林野 2,163万ha  
 (2,379倍)

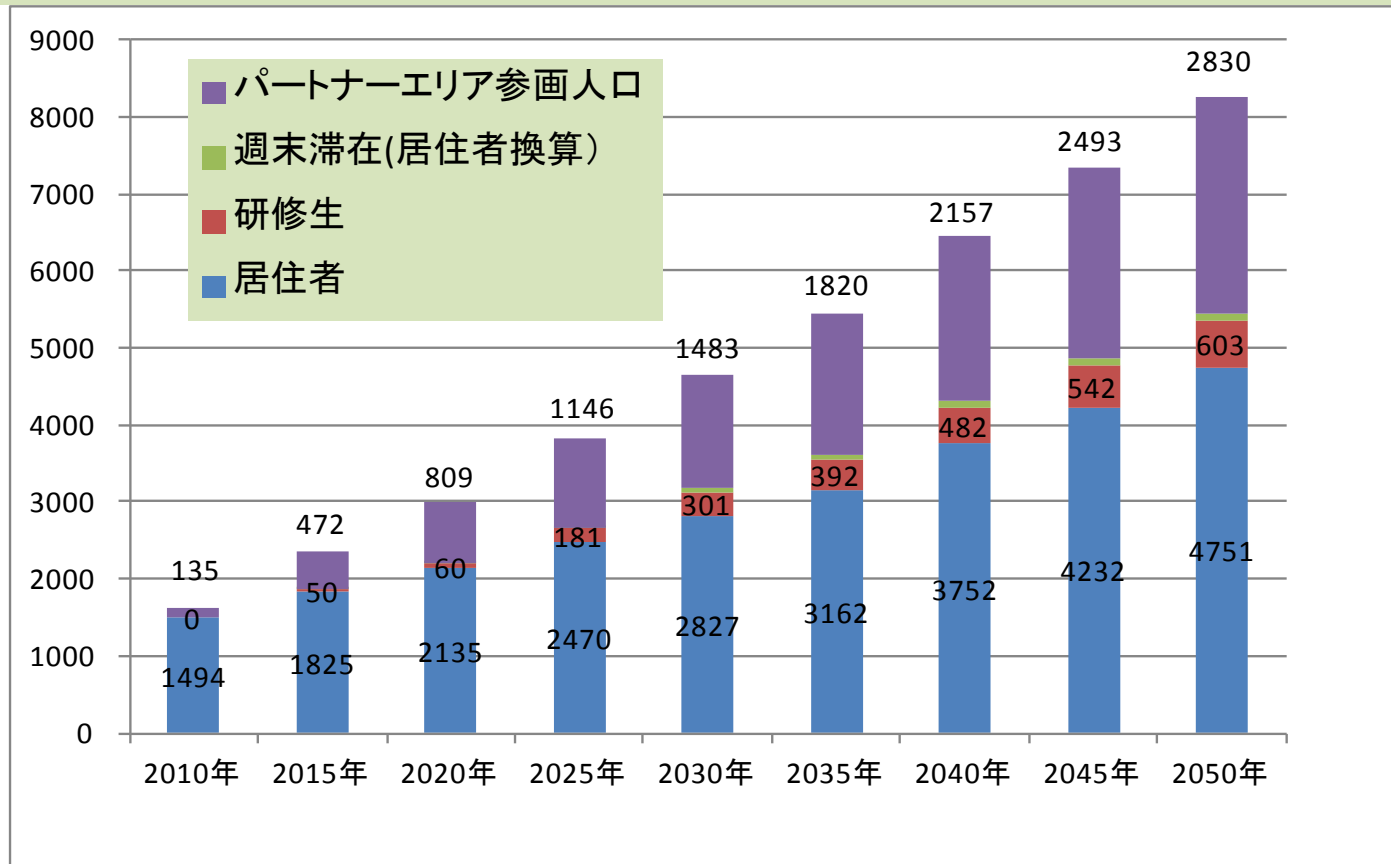


# 「1集落1年1組」の還流で2050年には、5,444人の居住人口

- ・弥栄自治区の人口定常化には、若者・子連れ夫婦・定年夫婦各3組の還流増が必要。
- ・今後、「1集落1年1組」方式で人口還流増加を図ると**2050年居住人口は5,444人**。
- ・5,444人の内訳（一般居住者4,751人、研修生603人、二地域居住人口実質90人）
- ・これに加えて、**パートナーエリア参画人口が2,830人**（食料の供給能力から逆算）

## ●人口還流増加シナリオ＜人口還流増加組数＞

- ①20代前半の男女 9組（計18名） ②30代前半夫婦と4歳以下の子供2人 9組（計36名）  
 ③60代前半夫婦 9組（計18名） 合計 27組（計72名）\* 全27集落で年1組の人口還流増加



# 「地元学」を軸とした地域の内発力形成と「郷開き」プロセス

## 「地元学」で自信と誇りを取り戻す！

## 「ここには何も無い」から「ここで一緒に暮らそう」へ

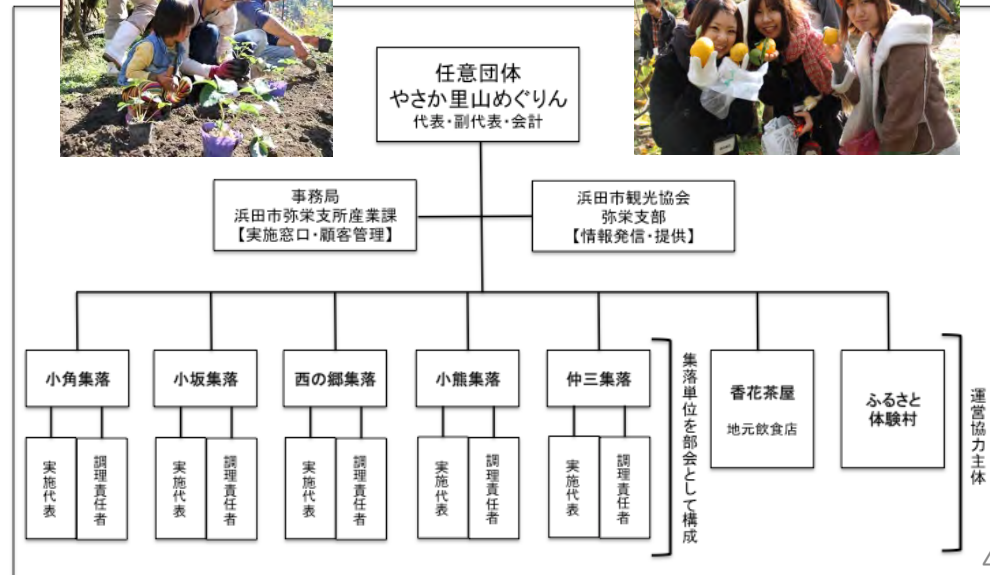
### ● 地元学の調査風景



### ● 集落での成果共有



### ● 「ええとこ歩き」の組織設立



# 中山間地域の「小規模・分散性」に根ざした生業づくり～「林業」・「エネルギー」編

## ●「やさか森づくりの会」



## ●小規模自伐「木出し会」



## ●都市住民との「薪割り会」



## ●「弥栄産薪ストーブ」の自主開発



# 全国展開シナリオ 2010~2050 (一部抜粋)

